Yachiyo-city
Tokyo Bay
CHIBA Pre.

たから
財やちよ

No. 6
2022. 2. 18
（令和４年）

八千代市
文化財
通信

特集　下総三山の七年祭り

「下総三山の七年祭り」は千葉県の指定無形民俗文化財に指定されています。数えの七年目ごとの丑年と未年に行われる千葉市，船橋市，八千代市，習志野市の４市・９社にまたがる壮大な祭りです。この祭りは，安産と子育てを祈願する祭りで，参加する９つの神社にはそれぞれ右のとおりの親族の役割があると言われています。

令和３年は丑年で七年祭りが行われる年に当たったことから，今回はこの「下総三山の七年祭り」についてご紹介いたします。

七年祭りに参加の９社

神社	役割
二宮（にのみや）神社（船橋市）	父・夫
菊田（きくた）神社（習志野市）	伯父
八王子（はちおうじ）神社（船橋市）	末息子
高津比咩（たかつひめ）神社（八千代市）	姫君
時平（ときひら）神社（八千代市）	長男
大宮大原（おおみやおおはら）神社（習志野市）	叔母
三代王（さんだいおう）神社（千葉市）	産婆
子安（こやす）神社（千葉市）	母・妻
子守（こまもり）神社（千葉市）	子守

○祭りの由来

七年祭りの起源については，二つの伝承が伝わっています。

一つは千葉氏の一族である馬加康胤（まくわりやすたね）の奥方の出産にまつわるものです。室町時代に馬加（現在の幕張）を本拠とした馬加康胤は，奥方が 10 か月を過ぎても出産しないことから，二宮神社の神主に命じ，安産祈願の祈祷をさせました。その結果，無事に出産することができたことから，康胤は大いに喜び，村々に触れを出し，盛大な祭事を執り行ったと伝えられています。

もう一つは平安時代の権力者である藤原時平に関するものです。時平は菅原道真を太宰府に左遷した人物として有名ですが，この時平の子孫はその地位を追われ，関東に安住の地を求めました。しかし，相模の国から房総に渡ろうとして海に出た際に風雨のため，久々田（習志野市鷺沼）海岸に難破して漂着し，この地に住み着き，社を建て久々田明神（現菊田神社）としました。その後，山深く清き地を求めて菊田川の源流へ遡り，住み着いた地が三山であり，そこに社を建て三山社（現二宮神社）の神主となりました。また，高津には時平の娘が住み着いたと言われています。この地域には藤原時平に関する伝承が多く残っています。これは一族の荘園があったからとも言われ，そのため三山の地に家族一同が集まることが祭りの始まりであるとも言われています。

○祭りの概要

七年祭りはまず９月に二宮神社小祭が執り行われます。９月中旬に開催されるこの小祭は「湯立

船橋市三山の神揃場（かみそろいば）で神輿を乗せるオツカです。

神揃場に各神社の神輿が集まりました。

神揃場では神職によるお祓いが行われます。

神輿は定められた順に従って，二宮神社に向かって移動します。

高津比咩神社の一行が二宮神社に到着しました。

神輿も二宮神社境内に入り，拝殿前でもまれます。

各神社の神輿は二宮神社拝殿へと昇殿します。

昇殿後，神事が執り行われます。

昇殿参拝の様子（時平神社）

昇殿後，磯出祭に参加しない神輿は各々の地区に戻ります。（高津比咩神社の神輿は，境内を一周してから帰ります。）

花流しの様子（高津比咩神社）

花流しの様子（高津比咩神社）

花流しの様子（高津比咩神社）

花流しの様子（時平神社）

花流しの様子（時平神社）

花流しの様子（時平神社）

祭（ゆたてまつり）」とも言われ，昔は湯立て神楽で神がかりした神官が大祭の日取りを告げるというものでした。現在は 9 社の氏子の会合で日取りを決めるため，この神事は簡略化されました。小祭は祭典を執り行った後，船橋市の三山の人々によって二宮神社の神輿が担がれます。三山の人々は大祭の当日に神輿を担げないので，小祭の際に十分に担いでおくとも言われています。

その後，11 月には大祭が執り行われます。大祭は前夜に行われる禊式（みそぎしき）から始まります。禊式は習志野市の袖ヶ浦運動公園（埋立て以前は鷺沼海岸）において大祭参加者が身を清めるため，海水の入った水槽で手を清めます。埋立て以前は実際に裸となり，海に入って禊ぎをしていました。その際，ハマグリやアサリを拾って縁起物として持ち帰る人が多かったことから，今でも水槽の中にはアサリが入っています。

大祭当日は 9 社の神輿が船橋市の三山の神揃場（かみそろいば）に集まり，神輿は「オツカ」に安置され神事が行われます。その後，二宮，菊田，八王子，高津比咩，時平，大原大宮，三代王，子安，子守の順で二宮神社に向かいます。到着後，二宮神社以外の 8 社が順番に昇殿参拝（しょうでんさんぱい）します。昇殿参拝とは神輿を担いで向拝を上がり，拝殿に神輿を滑り込ませ，氏子と共に神輿がお祓いを受けることを言います。昇殿参拝の後，二宮神社，子安神社，子守神社，三代王神社の 4 社は磯出祭（いそでさい）を行うために幕張の浜に向かいます。

磯出祭は大祭の翌日未明に行われる安産祈願の神事です。大祭が昼間に安産の御礼を行うのに対し，磯出祭はその後に安産祈願を行うことから，「三山祭りは後が先」と言われるようになりました。祭場では，三代王，子安，二宮，子守神社の順で神輿が設置され，中央に夫（二宮）と妻（子安）が向き合い，その脇に子守（子守）と産婆（三代王）が控えているという形になります。神主をはじめ両男女（りょうとめ：男女の稚児）らが入場した後，二宮神社から子守神社へ神幣が渡される「奉幣（ほうべい）の儀」が行われます。その後，神主が祝詞を奏上し，続いて子安神社の神主の仲介でタライの中で向かい合っている両男女がハマグリの交換を行う産屋の神事（うぶやのしんじ）が行われます。

磯出祭が終わると二宮神社の神輿は習志野市津田沼の「神之台（かんのだい）」に向かいます。神之台においても神輿は「オツカ」に安置され神事が執り行われます。神之台は火の口台とも言い，かつては市原市の姉崎神社に向かって，大祭の終了を知らせる狼煙を上げたとも言われています。その後，各地区では神輿を各地区内で渡御する「花流し」を行い，地元の神社に戻り終了となります。

令和 3 年については，残念ながら新型コロナウィルスの影響により，例年とは異なり関係者だけで開催されることとなりました。数百年もの間，現在まで受け継がれている下総三山の七年祭りは，これからも地元の人たちの思いとともに永く受け継がれていくことでしょう。

編集・発行：八千代市教育委員会文化・スポーツ課文化財班
〒276-0045 八千代市大和田 138－2
電話 047(481)0304